

イトーヨーカ堂  
鈴木敏文社長



中央大学  
鈴木康司学長



巻頭対談

# 中大よ 21世紀にはばたけ

〔はじめに鈴木学長から〕

私は昭和8年生まれですので、社長より1つ学年が下でございますけれども、似たような世代ということで、よろしく願いいたします。

21世紀に向け、世の中はすさまじい勢いで変わっております。その点、大学という社会はどうなのでしょう。とにかく全体のコンセンサスをとりませんと、なかなか動かないのですけれど、コンセンサスを全部とった時には、もう遅いということがよくあります。学長を選ぶ時は責任者として人を選んでおいて、権限はくれないというのが大学でございますので、それをかき分けかき分け、何とかしなければいけないと思っています。

いま大学でいろいろなことをやっておりますが、かつて社長が雑誌のなかで、本学にくつも提言されたうちで実際に実現した、あ

るいは実現しかかっていることを、ちょっとご報告させていただきます。第一は、大学としても都心にも拠点を持ったらどうだという助言でした。これについては、4月から市ヶ谷キャンパスが開校いたしました。そこでは特に社会人を対象にした大学院教育を行っております。

また、専門大学院設置基準に呼応する形で、ロースクール、及びアカウンティングスクール設立の準備作業に入っています。それから、特に研究開発機構という組織を作りまして、この機構長が情報工学の権威で辻井重男先生、理工学部の教授でございますけれども、この方が所長でトヨタ自動車との共同研究をやっている最中でございます。それからもう1つ、この機構の中に地球環境研究ユニットというのを作り、文化勲章を授章された宇沢弘文先生を中心に研究ユニットもここへ入れてやっている最中でございます。

あと、もう1つ。社長がいわれた時代背景が大きく変わったのだから、現在はキャンパスがどこにあるのか、あまり重要な要素ではないだろうということ。この点につきましては、モノレールの開通による交通事情の好転というのがひとつのチャンスでございまして、私としては、多摩という地理的な弱みを何とか強みに転換することができれば、というふうに考えております。同時に、強みはいっそう強くしなくてはなりません。ある程度、世間的な評価として定着している国家試験に強い大学という、これは何としても、このまましっかり保持していかなければならないと思います。

次いで、ちょうどモノレール沿線の諸大学、まず都立大学がございまして。それから、やがて調布に外語大学が参ります。さらに一橋大学がございまして。そういうモノレールの沿線大学の一種の大学連合都市圏みたいな、そういう計画をできればやろうと思って、可能性を一生懸命探っている最中でございます。1つの大学に入るということが、同時に幾つもの大学に入ると同じ効果を持つということがわかれば、学生はもう喜んで来るだろう、と考えております。

これからは、学生のニーズも多様化してまいりますから、昔のようにあるひとつの専門を掲げて、その専門だけを教えるという考え方よりも、自由なカリキュラムの編成とか、各学部間の壁を低くしたり、あるいは取り払って他学部履修とか、ある一定の科目を取りたければ取れますよというふうにして、他大学の学生、社会人、あるいは高校生に至るまで、門戸を開いて、という考え方が大切です。高校生に関しましては現実に来年から商学部が考えております。

もう1つは、やはりIT（情報技術）を利用した遠距離教育、特にこれは大学院のレベルで地方公務員や教員を対象にして十分やっていけるだろうと思い、ワーキンググループを作って、いろいろな可能性を探っております。それから社長がいわれた「スポーツ選手を集めて大学の知名度をよ

り一層高める」という点。中央大学は割にスポーツのレベルが高いと思います。特にことは水泳部が非常に活躍してくれました。

それからこれは意外と知られていないのですが、文化関係では、音楽研究会がですね、非常に高いレベルにあります。吹奏楽は完全な日本一でありますから、こういう点、もっと世の中にアピールしていきたいと思っております。

で、最後に「大学も世界の中の中央大学であるべきだし、世界と人類に向けた発信地でもあるべきだ」というふうにおっしゃってられます点では、現在は15カ国45大学と交流しております。常時だいたい400人近い留学生がおりますが、私は隣席でどこの国の人間が学んでいようと、誰も別に横を向いたり、振り向かないというのが当たり前の環境を作っていきたいと思っております。

私自身、パリで国際大学都市の日本館の館長をやっておりましたから、いわゆる日本人と外国人という発想があまり好きではありません。どこの国の人であろうが共通する部分はいくらかもあるのです。

それからもう1つ。過日、社長が「もう少し世間というもの、あるいは実業の世界、そういうものを学校の中で馴染ませることが役に立つだろう」といわれたことです。これは幸いにして、JETRO・アジア経済研究所の跡地を市ヶ谷キャンパスとして取得することによって、JETROとの関係を作り、JETROとの協定締結によりまして、今度、特に大学院レベル、あるいは学部学生レベル、それから留学生をも含んだインターンシップ制度、これをJETROの顔の効くところを中心に、全国的に実現することができる。これは学生たち、特に経済学部や商学部の学生に、非常に役立つと考えます。

そんな形で現在、3つのキャンパスを有機的に活用して中央大学を発展させるというふうにごんばっております。

（対談は次ページから）

### 3つのキャンパスを有機的に活用

## いまの場所をどう生かすか

学長 きょうは、ぜひ社長に財界人としての立場からのご助言や、あるいは中大のOBとしてのご助言、あるいは学生たちに対する、教員に対するご助言をいただければと、そういうふうを考えております。

鈴木社長 実は秘書室に中大の文学部出身者がいるのですが、先日「君たち学校にいるとき、八王子の学校はどうだったんだ」ということを聞いたんです。そうしたら「便利か不便かといえば、不便には違いないのですが、逆に、あそこですべて、いろいろなことが間に合うんです。かえって便利な面も結構多かったです」という答えが返ってきたんです。いままでもいろいろなOB会、その他の集まりで会うと、学校の話が出るのですが、必ずといっていいほど、「都心から離れているから学生が集まらない」とか、どうのこうのと……。私は単にそれだけじゃないのではないか。例えば、先ほど先生がおっしゃった、一橋大学ですが昔、郊外に移った時はいったいどうだったんでしょ。

学長 本当に辺りなところへ行っただという印象を与えたと思うんです。にもかかわらず、立派な一流大学ですときているということは、どういうわけかということです。

社長 そりゃあ、そうですね。やっぱり、いままで都心にいて便利だった。遠くへ行ったからといって、すべて失われたというのは、どうしても私は理解できない。とくに学長さんは、世界中のいろんな大学をご覧になっているから、おわかりになるでしょう。例えばアメリカなどでは、むしろ中心より離れたところに、みんないい大学は



あるわけですね。ところが、不便だ不便だということ、大学経営に携わっている人たちとか、あるいはその教授の方々が、自分たちの通勤事情とかで、そういうことをおっしゃるんじゃないでしょうか。そうじゃなくて、むしろ、いまの場所をどう生かしていくか、という学校経営というものが、まずあってしかるべきですね。

## 胸をはれる要素から「自信」

それから2番目の問題は、中央の学生はどうなんだという、ご質問ですよ。いま私たちのグループだけで700～800人の中央の卒業生がいるんです。やっぱりいろんな大学と比較してみるとね、入ってくる時もそうですけれども、自信喪失という表現が悪いんですけど、もっと胸を張って

# にとって順風だ



ほしいという気持ちがありますね。

学長 それはコンプレックス？

社長 そう、なんとなく感ずるんですよ。これは自分の会社のことなんですけれども、いま、グループの中で一番利益的に業績をあげているのは、セブン・イレブン、それからヨーカ堂……。おかしなものでね。セブン・イレブンというのは、ヨーカ堂からみたら子会社です。そのヨーカ堂が、どんどん成績を上げていく時には、社内でやっぱり胸を張って歩いていました。ところが最近、セブン・イレブンの方がどんどん伸びているんです。そうすると、社外の人目からも、セブン・イレブンの社員の方が胸張って歩いていくっていうんです。ヨーカ堂の方が親会社という立場でいながら、そういうふうに見えるっていうのはや

っぱり仕方のないことです。やはり、自信の持てる要素というものを、幾つ持っているか、ということじゃないかと思います。それは勉強の面でも、スポーツの面でもいい。野球部でも、水泳部でもいい。いろいろなもので、マスコミに出ても胸が張れる。あるいは、司法試験でもいいし、公認会計士試験でもいい。それから就職率でもいいですし、胸が張れる要素がいくつあるかということによって、自然に自信というものが湧いてくるんじゃないかと思います。

## 弱みを強みに転換

学長 おっしゃるとおりだと思います。私が学生たちに絶えずいっておりますのは、「君たち、下を見たら意味がないんだよ。中央大学は、立派な部分があるんだから、

それをしっかり理解して、それをつかめばいいじゃないか」とよく申します。お話しただきました第1の遠いという点については、YAHOOで検索しますとですね。中央大学の学生およびOBの意見というのが「入ってよかった」という声がほとんどです。これはまあ、出してくるのが、そういう人たちなのかもしれませんが。とにかく入る前の中央大学のイメージより、入ってからの方がよっぽどいいというのはあるんです。

私は中央大学っていうのは、世間的には非常に地味なイメージで、早慶のすべり止めみたいな感じで受験して結局、早慶に入れなかったから中央に入るっていう、初めっから、早慶にはかなわないっていう、その感じで入ってくるから、なんとなく下を向いているというイメージです。ところが入ってみると、そんな悪い大学じゃないじゃないっていうことがわかってくる。それで、遠いということは確かなんですけども、一橋だって遠かった、津田塾だって遠かった。国立、私立の別はないと私は思っています。

ですから、先ほど申し上げましたように、

弱みを強みに転換するにはどうしたらいいだろうか。一つのやり方として、周辺の大学と連合体というものを作るとするのは、非常に役に立つんじゃないかと思っています。

## 「都心から遠い」は言い訳

社長 ですから、私は理事の方にもいうんですよ。「あなたがおかしいんじゃないか。学生たちにもっと誇りを持たせるような、言い方をどうしてしないのか」ってね。特に法学部ね。都心から離れちゃったから、ああだこうだと、そんなことは言い訳以外の何ものでもないのではないかな。それじゃあ、本当に司法試験を目指す人の中で、近くだからという理由だけで中央へ入って、それで司法試験を受けるって人は、いったいどれだけいるんだ。そうじゃなくて司法試験を目指そうという学生は、もっとたくさんいるのではないかな。そちらの彼らのニーズに応える方が重要なのに、一部分だけを取り上げて議論しているのは、おかしいじゃないでしょうか。

それから、私は経済学部に入學して、ずっと経済学会のゼミにいました。そこで会

すずき・としふみ イトーヨーカ堂グループ代表。セブン イレブン・ジャパン代表取締役会長。経団連副会長。昭和7年長野県生まれ、31年中央大学経済学部卒。同年東京出版販売（現トーハン）入社。53年（株）セブンをイレブン・ジャパン代表取締役社長、平成4年（株）イトーヨーカ堂代表取締役社長、（株）セブン イレブン・ジャパン代表取締役会長就任。



## もっと胸張って欲しい

長をさせられていて、170～180人集まったと思いますが、教授陣とかを見ていて思ったことは「どうして、もっと広くいろいろな外部の人たちを入れないんだろう。うっかりすると、モンロー主義的なものがあるのではないか。これではまずい。例えば慶応にしても、大学のいろいろな人たちが学校以外の各方面で、さまざまな役目をもって活動されている。そして教鞭をとっておられるわけですよ。中央の卒業生が中心でなくちゃいけないとか、何の誰々先生の派閥じゃなくちゃいけないんだとかいう考え方自体が間違っているんじゃないでしょうか。

学長 文学部と理工学部、総合政策学部は、今のお話に当てはまらないんです。歴史の浅いせいもありますが、創設時からいろいろな大学の卒業生によって作られています。しかし、歴史を持つ法、経、商学部もそれに気づいて、いま改善しつつあります。社長 大げさに言いますと、教授陣が世界中から集まってきて、「あそこへ行かないと、この講義が聴けないんだ」というような講座を幾つ設けられるかということの方が先じゃないでしょうか。経営陣として、

そういう教授陣を集めるために、もっと資金を投入してもいいんじゃないか、と思いますがね。

## 市ヶ谷の拠点はよかった

学長 その点、私は総合政策学部で、かなり実現性が高いと思っています。あそこはそういう自由なことがどんどんやれます。さきほどの市ヶ谷のお話でございますが、やはり良かったと思いますのは社会人ですね。社会人は大部分が都心で働いていますから、会社の帰りに一杯やるかわりに、「市ヶ谷あたりで社会人教育をやってくれるなら、そこで勉強してから帰ろうか」と思うでしょ。そういう点では、あそこは拠点としては悪くないと思います。(笑い)

社長 なにか、都心にああいうものを造るということが、目的化しちゃっているように思える要素があるんでしょうね。そうじゃなくて、与えられた条件のなかで、より充実した学園生活を送れて、そして良い人材を輩出するためには、どうしたらいいのかという、もっと前向きで積極的な考え方を、出すべきじゃないかと思うんです。

これはビジネスの世界でもそうですよ



## 周辺大学と連合体を

すずき・こうじ 中央大学学長。昭和8年東京生まれ。31年東京大学文学部仏文科卒、39年同大学院人文科学研究所仏文学専攻博士課程を満期退学。同年中央大学文学部専任講師、49年中央大学文学部教授、59年パリ国際大学都市日本館館長、平成元年中央大学文学部学部長、3年学校法人中央大学理事。文学博士。主な著書に「下僕像の変遷に基づく 世紀フランス喜劇史（大修館書店）」がある。

ね。自らが時代の変化というものに対応できず、ダメになった原因を自分以外のところに見つけたがるんですよ。よくいうんですけれど、企業経営なんかで人、物、カネといわれますが、よくよく考えれば、それらはすべて内部指向の産物なんです。だから人、物、カネが全部そろったとたんに、企業というのは下向きになる場合が多いわけですね。まあ、学校は企業経営とは同じとは言いませんけれど。

話は少し飛びますが、受験生の数が減っています。全体的にみれば進学する人口が減っていることも事実でしょうが、それぞれの学校がいろいろな手を打っていますよね。例えば、全国に試験場を設けて受験機会を拡大していくようなことに対して、どこまで積極的になれるか。何も手を打たずに人が集まらない、といっているんだとすれば、やっぱり大学に問題があるんじゃないでしょうか。

## 絶えず社会へ発信

学長 それはもう、全く大学が悪いんだと私は思っています。今年は特に商学部が非常に危機意識を持ちまして、全国的に絶えず商学部の先生方が高校の先生方と接触しましたし、いわゆるフレックス制の導入。また奨学金もプラスする制度、それからあと、いわゆるアドミッション・オフィス入試、自己推薦などを含んだ一般入試と違う、論文と面接という形で、モチベーションのある学生を入れるという、いろいろなやり方をしまして、一度に5,000人ほど増えました。全体として、計算上は9,000人ほど増えていますけれども、しかし、これも単に一年こっきりの話では全く意味がないので、今年増えたからといって安心はできないと思います。ですから、絶えずこうやって社会にアピールし、中大へ入ることによってプラスになりますよ、とアピールすれ

ばするほど受験生は来ると思います。

社長 時代の変化の対応には、ちょっと遅れているかなと思いますね。

学長 昔から中大は「石橋を叩いても、なおかつ渡らない」という、あまりうれしくない評判をいただいておりますが、そんなこといったら沈没するだけですから。

社長 そうなんですよ。やっぱりOBにしてみても、自分が出た学校が輝いているということが大事ですからね。いろいろな場所に出てもね、最初のうちは、なんとなしに世間話をしていて、そのうち昔の話になって、それから現在の大学の話になるんで



すよね。そこで「もうちょっと、こうでないとおかしいんじゃないか」といった話がよく出ます。初めて、ざっくばらんになるんですよ。

学長 いや、よくわかります。社長さんがさきほど、うちの卒業生はもう少し胸を張ってほしいというお話をされましたけれど、それ以外に対人関係とか、あるいは語学が弱いというふうに言われております。

語学に関しては、総合政策学部がトッフルや英検がございますね。あれを500点以上取らないと卒業できないというスクリーン制を設けていますし、それからフランス語などでも、政府の給費留学生試験に合格していく学生も増えてきましたので、昔よ

りはずっと強くなっていますけれども、ご覧になっていかがでしょうか。

社長 やっぱり先ほども申し上げたのは、私がある流通業界というのは、中央大学出身者はものすごく多いんですね。例えば私どものヨーカ堂だけでも、役員だけでも7～8人いるんじゃないですかね。ご存知のように、いまは文字どおり実力主義ですからね。やはり実力がなかったら東大であろうと、早慶であろうとだめですし、中央どころか、あまり名前を聞いたことがない学校の卒業生でも力を発揮している。そういう社会になってきたんですね。



## スポーツの振興もいい

学長 ますます、そういう時代になっていきます。私は実は相撲部の部長をやっておりますので、出島とか玉春日は学生時分から良く知っておりますが、あの出島がぐんぐん上がってきた時に、学員の皆さんがとっても喜んでくださいました。やっぱり、私は私立大学というのはスポーツの立派な選手を出すことも、社会の役に立っているんだ、ということを感じました。それに、一流のスポーツ選手というのは、頭が悪かったらなれないと思います。みんな頭がいいんです。

社長 そうですね。われわれの頃も、柔道部にいた人が優等生で卒業したりしてね。

私はイトーヨーカ堂に入社してから長い間、人事をやっていますね。何百人と採用している中には、例外的ですが、勉強面で無理かなと思う学生をどうしてもいわれて、「それなら、お預かりしましょう」という場合があります。彼らのなかには4～5年たつと、えらい力を発揮してくる人も多いんです。実業界の世界では、単なる成績だけではなんともいえないんです。だからといって、学校の勉強をしなくていいかということ、そんなことはないんですが...。(笑い)

えてして世間の大学の先生方には、偏差値以外に人間を測る尺度を持たない方がおられるものです。そういう方には私は「全然、違うでしょ」と。あれは知力を判定できる正確な物差しになるかどうかもわからない。それだけに頼っていたら、人間ろくなものにならないかもしれないじゃないか。モラルに全く欠けた、偏差値の天才が現れたら、それこそかえって人類の敵になるんじゃないかと、そんなことをいったことがあるんです。

学長 それは本当ですね。私も卒業生には、たとえ成績がビリでも、卒業したら1番で出たような顔をしていいんだよといいますが、やはり一応ちゃんと勉強だけはしてくれよといえます。

社長 よく、大学時代はそれほど勉強しなかったけど、そのかわり、クラブ活動で人間関係を作りあげたし、いろんなことをやりましたという学生がいますが、私はそれはおかしいと思うんですね。言い訳に聞こえるんですよ。

学長 うちの学生は割りにそういう点はまじめな学生が多いんじゃないかと思うんです。いまみたいな時代には、かえって光を取り戻す学風ではないかと思います。しかし最近、これはなかなか困ったことで、いわゆる楽勝科目と学生たちがいいまして、

あの先生は答案に何を書いても大丈夫だと。そういう先生に人気がある。昔は厳しい先生でも偉い先生だと学生は履修していたんです。これが10年以上前から、できる限り楽勝したいという学生が増えてきている。極めて嘆かわしいことだと思います。

## 自分の売りを持つ

社長　そういうことをやって社会に出すと、その学生を不幸にすることになります。社会に出ると本当に競争ですからね。例えば、君の特徴は何だ。他の人に比べて君は何を売りにできるんだという、返答できない学生が非常に多いんです。どんなことでもいい。例えば映画なら映画に打ち込んでいたら、映画だけは他のどんな人よりも負けずに見て、しかも映画論の1つや2つ、ぶてますというような学生がいれば、それは私は構わないと思うんですね。個性は何も自分の心の中にある性格がユニークであればいいという問題ではなく、自分が他人と比べた時に、どういう違いをもっているか。それがどのような長所であるかということをはっきり言える人間が、卒業して外へ出て行っても大丈夫だろうと思われるわけですが、当然のことを学生としてやってから、社会に出てきてもらいたい。なにか4年間、遊びに行っているという感覚では困ります。それは本人にとっても辛いことです。学長さんはよく外国に行っておられるから、よくわかりだと思いますが、日本は大学に入る時だけ厳しくてね。

## 「とにかく改革を……」

学長　痛しかゆしと申しませうか。私立の場合、非常に厳しい査定をして、どんどん振り落としてしまうと、キャンパスが落第生で溢れてしまうという悩みが一つありますね。それがどこに影響を及ぼすかと申しますと、文部省からの助成金、これは学

生の総数が定員に対して1.2倍だったでしょうか。1.2倍を超えますと助成金に大きく跳ね返ってきます。ダメな学生を置いておきますと、新しい学生をあまり取れなくなってしまう。ですから結局、国立のように厳しい制度を敷くということが難しくなってしまう。われわれもできる限りそういうことを、きちっとやりたいのですけれども、国立よりは甘くなってしまう部分があるわけですね。

私学の活性化については、皆さん一生懸命、考えている最中です。やっぱり慶応・早稲田はよく考えていますよね。意志決定も早いのです。そういう組織になっている。中大もそういう組織になっていればもっともっと動くと思うんですけども。いつになっても外野でいろいろ言っているだけでは何も変わらないですよ。とにかく改革をやらないとね。

学長は3年任期でして、1期で私は定年近くになります。どうせ3年しかやらないのだから、言いたいことを言おうと思っておりますけれど……。実は理工学部校舎を思い切って改築して、そこに全学的な学会を開けるような施設もいれようと計画中です。理工学部の先生方は開かれた発想の方が多いのです。「大いに結構。なにも理工学部だからといって理工学部だけのものではない。大学のものだから大学全体で大いに活用してください」といわれています。

社長　そうですね。先ほどもちょっと申し上げたように、経営陣には「経営改革するんだ」という強い信念で、学校経営に当たってもらいたいということなんです。それから先生方にもこれでいいのかということ、どこにも負けない学校になっているのか、誰にも負けない自分を持っているのかという強い自覚をぜひ持っていただきたい。学生は学生でやっぱり誇りを持って、卒業した時にも「わが学生時代に悔いなし」

というような、学生生活を送ってもらおうということじゃないでしょうか。

だから、誰かだけが努力すればいいということではなく、みんながそういう形でやれば、OBたちも積極的にそれに対して賛同するし、支援するだろうと思うんです。

## お互いに連帯意識を

学長 やはり連帯意識を持たなければ...  
...。日本の私立大学では慶応がみごとにそれをやっています。早稲田はちょっと規模が大きくなりすぎて、首を傾げる部分がありますが。中央は連帯意識に関しては、もっともっと考えなければいけないんじゃないでしょうか。強みを強みとして、なんとか頑張らなければいけないということに捕らわれすぎると、法科一辺倒になるんですよ。確かに法学部は中央大学の看板であることは間違いないし、そして司法試験に強いということも事実です。

一方で商学部あたりの公認会計士の試験も頑張ってくれていますし、公務員試験に関してだって中央全体でよく頑張っている。しかし、ある1つだけが自分たちだけだという発想をすると、必ずそこで崩れてくる。そうじゃなくて、周りが「法学部、頑張ってトップを走りなさい。われわれは、ちゃんと後からあなた方を支えて一緒に行くから」という態勢ができれば、法学部は先頭に立つのは大いに結構だと思うんです。連帯感の問題だと思うんですね。

社長 それから私は、公的な委員会に引張り出されることが多いんです。もちろん立地条件的なものもあると思うんですけど、とにかく慶応関係者が多いんですよ。そういう面から見ると中央があまりにも少なすぎる。何も私は名物教授を作ってくれといっているんじゃないくて、いろいろところで発言するということが、マスコミにも載るということになる。そうすればどの

教授のとか、どの経済のとか、どの法律のというような、一般の人たちも関心を持つようになると思うんですね。

学長 社長さんの目からご覧になって、中大の後輩たちに「お前らせっかく大学を出て社会へ出るんだから、こういうことをきちっと身に付けて出るよ」というご忠告があれば、お願いしたいですね。

## 社会は実力本位の人物を

社長 私は先ほども申し上げましたが、出身大学というのは、社会に出ても付いて回るものなんです。だからと言って、会社側も偏差値の高い大学出身者ばかりを入社させればと安泰かという、そういう時代ではなくなってきています。本当に実力のある人間を登用していかないと、会社が持続できない時代になってきています。私はむしろ過去の中央というのは、実業界の社会には少ないということで逆に、いまは非常に恵まれた時代になってきたんじゃないかと思いますね。

学閥なんか関係なしに、自分たちが力さえ発揮すれば十分に通じる社会になったということ、やはり私は積極的に考えてもらいたいし、挑戦してもらいたいと思います。

学長 確か、「ピア」の社長は中央でしたね。かつてはなかなかアイデアを持って自分でがんばれる学生も出ていたんですね。私は中央のOBで社会で活躍する余地は、いろいろな分野であると思っているんです。きょうは本当に、いろいろためになるお話をいただきまして、ありがとうございました。いずれ社長業が飽きられましたら、中央大学の方に、ひとつお力添えをいただきたいと思います。(笑い)

ご助言いただいたことを、活かせるように努力してまいります。

(おわり)